京都のINGを CHECK IT OUT!!

口コミ情報カタログ

THIS MONTH TOP NEWS

「奥田商店」のしそ焼酎 大原女

売り手から造り手へ… 香り高きしそ焼酎誕生

「京都特産の本格焼酎を作りたい」。そこで奥田商店が目を着けたのは、「赤紫蘇＝しば漬」のセオリーだった。小売業のネットワークを活かし、本場九州の醸造所と提携した焼酎造りにおける最大の難関は、大原産の赤紫蘇の風味を最大限に引き出すこと。米焼酎に漬け込む紫蘇の量や期間などの微調整を繰り返し、従来品にない紫蘇の芳醇な味わいがとじ込められた「大原女」が誕生した。これで胸を張って言える。「風土もろとも感じられる京都の焼酎があります」と。

今年発売したばかりの「大原女」1500円は、香りを楽しむためにロックで飲むのがベスト。原料の香りや風味を引き出せる単式蒸留を採用しているので、「本格焼酎」のカテゴリーに含まれるのだ

問い合わせ先
●奥田商店
075・501・8900
【賞味期間】約2年間
【保存方法】常温

京の贈りもん、こんなんどおえう？ 脱・スタンダードの美酒&良品名鑑

贈答品の宝庫・京都には、今回の特集ページでご紹介した美味いもんのみならず、風土の恵みを取り入れた美酒や、新しいアンテナから発信する工芸グッズがまだまだ隠れている。「ありきたり」とは言わせない、京都印のスーベニールをとくとご覧あそばせ。

「月の桂」増田徳兵衛商店の祝米純米吟醸にごり酒

伏見の水と米が生きるにごり酒のプロトタイプが完成品に

「祝米　純米吟醸にごり酒」(720ml) 2500円。開栓を繰り返しながら撹拌しなければ中身が溢れ出してしまうのでご注意を

現在1000種以上存在するにごり酒、その元祖が「月の桂」のにごり酒だ。38年前、どぶろくを現代に蘇らせようと志した先代は、もろみを目の粗いザルで濾すことで、酒税法ギリギリの極めてどぶろくに近い芳醇な酒を確立した。火入れを行わず酵母を生きたまま瓶詰めにするこの酒は、まさに「もの言わぬ生き物」。その証拠に口の中でプチプチと弾けていく泡は、酒の五味を優しく引き締めてくれる。近年は伏見の農家と共に古来の酒米「祝米」を無農薬有機栽培で復興させ、「純米吟醸にごり酒」を世に送る。パイオニアの心栄えは酒と反して澄み切ったままだ。

「意外と天ぷらやトンカツあたりの濃厚な料理に合いますよ」と14代社長・増田氏

●月の桂　増田徳兵衛商店
京都市伏見区下鳥羽長田町24
075・611・5151
9:00～17:00／土日休
http://www.tsukinokatsura.co.jp/
【賞味期間】半年間
【保存方法】冷蔵

「Terra」の竹紙

個性が浮き立つ紙は竹100%のハンドメイド

店内の壁は水上勉氏が5年間浸け込んだ竹を漉いた竹紙を使用。元写真館の2階スタジオを利用してギャラリーを運営中

創作竹紙1000円、壁面竹紙700円、カード200円、葉書100円～、竹ペン700円、竹筆1000円～など

約5年前、作家・水上勉氏の居宅で竹紙作りを体験した小林さんは、「なんて美しい紙なんだろう」とその魅力に取りつかれた。3～6ヵ月もの間水に浸し、三日三晩かけて煮込み、繊維を丹念に潰してから、「溜め漉き」という古典的な方法で漉く竹紙。マスプロ社会に取り残された「アウトサイダーな紙」だが、何よりも「人の個性が出る」と彼女は大好きな寺町通に自身や作家の竹紙を並べる。少しずつでもいい、一枚一枚異なる竹紙の風合いを感じて欲しいから。

●Terra
京都市中京区寺町通二条下ル
榎木町98-7
075・257・1755
11:00～18:00／月休

2003.9.1

HiENA 出る！

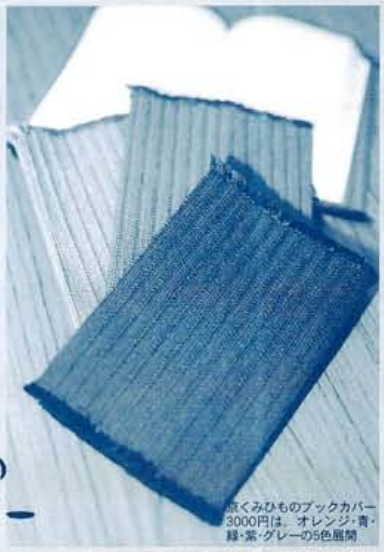
http://www.hiena.jp

京都の街を震撼させる
次世代クーマガ『ハイエナ』創刊

くみひも職人から届けられたカバーにマジックテープを施すご主人。このショップでしか買えない貴重なアイテムである

職人のジョイント発「使える」工芸品

「五明（ごめい）」の京くみひものブックカバー



京くみひものブックカバー3000円は、オレンジ・青・緑・紫・グレーの5色展開

仏像からティファニーまで、その金箔工芸の技術を今に伝える「五明」。「どんな切り口でもいいから生活に溶け込む工芸品を」と職人仲間から募った様々な新アイテムを工房併設のアンテナショップに広げた。京くみひもブックカバーもその一つ。平らな高麗紐を縫い合わせたコースターを見て、ご主人がくみひも職人にリクエストしたものだ。「文庫本にお世話になった世代やから、おしゃれさせてあげたくて」というご主人ならではの発想。読書家にはたまらない心遣い。

●五明
京都市下京区新町通正面下ル
平野町792-2
075・371・1880
9:00～18:00／第2・4・5日休
http://www.gomei.ne.jp/

「efish（えふぃっしゅ）」の手ぬぐい「amida（あみだ）」

現在渡米中のプロダクトデザイナー・西堀晋氏の「置き土産作品」の一つに「amida」手ぬぐいがある。いかなる対象物にも「遊び心と機能性のバランス」を重視するデザインの才は、江戸前仕様の木綿に染め抜かれた「あみだ」柄にも発揮された。フリーハンドで描き起こした彼の手の跡は、「ありそうでなかった」飽きの来ない不規則線であり、実際にあみだくじが引ける「遊び心」も欠かしていない。一枚の布にも西堀デザイン論が秘められているのだ。

西堀氏自身手ぬぐいを愛用していたこだわり、業メーカーの協力を得て商品化に至った「amida」1000円は、白・黒・赤の3色

全国に名を馳せる「efish」は今年で4周年を迎える

●efish
京都市下京区木屋町通五条下ル
西橋詰町798-1
075・361・3069
1F11:00～22:00
2F11:00～翌1:00／無休